



PERFECT SERIES

ファインパーフェクトトップ Si

JIS A 6909 耐候形1種相当※
※該当規格を満たしています(社内試験)

F★★★★★
ホルムアルデヒド放散等級



FINE PERFECT TOP **Si**

ターペン可溶1液ラジカル制御形シリコン系ハイブリッド高耐候性塗料

ファインパーフェクトトップ® Si



NIPPON PAINT

Basic & New

ツヨク、
ウツクシク、
スマイヨク。

FINE
PERFECT
TOP

ターペン可溶1液ラジカル制御形シリコン系ハイブリッド高耐候性塗料
ファインパーフェクトトップ Si

弱溶剤タイプで、
外壁や鉄部、付帯部にも対応可能。
材質を選ばずオールマイティに使えます。

「転写性によるグリップ感」や
「肉厚によるかぶりの良さ」がポイントです。

期待耐用年数※
最大**15**年

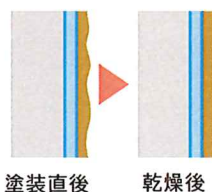


ファインパーフェクトトップ Siの主な特長

1. 高いレベリング性と美しいつや

粘性調整によりレベリング性(均一に平らになる力)を向上させ、美しいつやが得られます。
パーフェクトシリーズの下塗りとの組み合わせにより、さらに美しいつやになります。

高いレベリング性能



塗膜の顕微鏡拡大写真(50倍)

光の反射が鮮明



パーフェクトフィラー(なみがた) +
ファインパーフェクトトップ Si(つや有り)

光の反射が鈍い



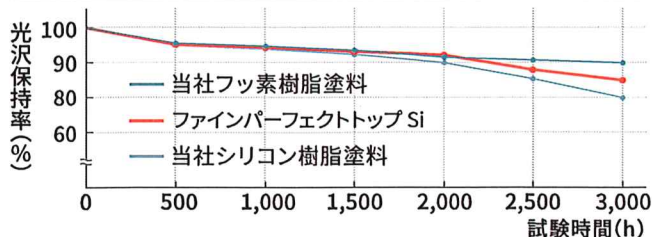
一般微弾性フィラー(なみがた) +
一般水性外用塗料(つや有り)

2. ラジカル制御技術による高耐候性

紫外線による塗膜劣化対策として高耐候酸化チタンと光安定剤によるW効果で、耐候性を高める「ラジカル制御」技術により、紫外線に強い一般1液弱溶剤系シリコングレードを超える(当社従来品比)強じんな塗膜を形成し、塗りたての美しさを長期間保ちます。

促進耐候性試験

試験方法: キセノンランプ式試験



※上記の数値は実測値であり、性能を保証するものではありません。

■上塗り塗料の耐候性のグレードレベル



3. 塗りやすい

ローラー塗装時に塗料の「グリップ感」「滑りにくさ」が得られます。

粘性調整剤により肉厚感が得られ「かぶり」が良いです。

4. 低汚染性・防藻・防かび機能

親水化技術により、雨だれ汚染に対して優れた効果を発揮します。防藻・防かび機能で、藻やかび菌の発生を抑制します。オプションで強力防かびタイプを選択することも可能です。

※期待耐用年数は塗膜劣化が進行し、塗膜寿命により下地保護機能が期待できなくなると予想される目安の時期であり、保証値ではありません。
また、期待耐用年数は一般都市部住宅の東西面において標準的な環境・塗装条件で施工された場合を想定しています。その他詳細は当社ホームページをご確認ください。



塗料性状・荷姿

塗料名	色相	つや	容量	希釈剤	希釈率	使用量(kg/m ² /回)	塗装方法
ニッペ ファインパーフェクトトップ Si	白、淡彩色～濃彩色 原色9色 ※1	つや有り 7分つや有り 5分つや有り 3分つや有り	15kg 3kg	塗料用 シンナーA	3～13% ※2	0.11～0.17	はけ・ウールローラー
					3～8%		エアレススプレー

・上記の数値は、標準的な数値です。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・希釈率および測定機器・測定方法により増減します。
 ・上記の使用量は、記載の塗装方法で標準的に使用する量を記載しています。必要に応じて、所定の使用量・膜厚になるように使用量・塗り回数を調整してください。
 ※1 原色はブラック、オーカー、インディアンレッド、シャニンブルー、ニュータフレッド、エコロエロー、シャニンググリーン、エコロオレンジ、バイオレット。
 ※2 はけ、ウールローラー塗装時の希釈率は、鉄面の場合 3～13% コンクリート・モルタル面の場合 5～13%です。

適用下塗り塗料・適用下地

	適用下塗り塗料	適用下地
内外壁	パーフェクトフィラー パーフェクトサーフ	●モルタル面 ●窯業系サイディングボード ●コンクリート面 ●ALCパネル面 ●各種旧塗膜の上
	ファインパーフェクトシーラー 1液ファインパーフェクトシーラー	●無機やフッ素下地の高意匠サイディングボード (従来のモルタル、コンクリート面などにも塗装できます)
付帯部	パーフェクトプライマー	●付帯金属面 ●FRP ●亜鉛めっき ●木部 ●アルミ ●各種旧塗膜の上

乾燥時間

	5～10℃	23℃	30℃
指触乾燥	1時間	20分	10分
塗り重ね乾燥	8時間以上	3時間以上	2時間以上

※乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

標準塗装仕様(塗り替え)

●窯業サイディングボード面

塗装工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地改修処理	下地改修処理が必要な場合は、下地調整結果に基づいて、塗装工事前に実施する。						
下地調整	ほこり、汚れを除去した後、サンドペーパー、ウエスなどで素地を調整する。						
下塗り	パーフェクトサーフ	1	0.20～0.40	3時間以上	水道水	2～5	はけ・ウールローラー
上塗り	ファインパーフェクトトップ Si	2	0.11～0.17	3時間以上	塗料用 シンナーA	5～13 3～8	ウールローラー エアレススプレー

●高意匠サイディングボード面

塗装工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地改修処理	下地改修処理が必要な場合は、下地調整結果に基づいて、塗装工事前に実施する。						
下地調整	ほこり、汚れを除去した後、サンドペーパー、ウエスなどで素地を調整する。						
下塗り	ファインパーフェクトシーラー	1	0.05～0.12	4時間以上7日以内	—	—	はけ・ウールローラー・エアレススプレー
上塗り	ファインパーフェクトトップ Si	2	0.11～0.17	3時間以上	塗料用 シンナーA	5～13 3～8	ウールローラー エアレススプレー

●コンクリート、モルタル面

塗装工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地改修処理	下地改修処理が必要な場合は、下地調整結果に基づいて、塗装工事前に実施する。						
下地調整	ほこり、汚れを除去した後、サンドペーパー、ウエスなどで素地を調整する。						
下塗り	パーフェクトフィラー	1	0.20～0.45	4時間以上	水道水	3～8	ウールローラー
			0.50～0.90			1～5	砂骨ローラー
上塗り	ファインパーフェクトトップ Si	2	0.11～0.17	3時間以上	塗料用 シンナーA	2～5	タイルガン
						5～13 3～8	ウールローラー エアレススプレー

●一般鉄部および金属サイディングボード面

塗装工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地調整	膨れたり、割れたり、浮いている劣化塗膜は、周辺部を含めて入念に除去する。さびは電動工具やサンドペーパー・研磨布などを用いて除去し、清掃する。						
下塗り	パーフェクトプライマー	1	0.14～0.16	4時間以上7日以内	塗料用 シンナーA	0～5	はけ・ウールローラー
			0.16～0.18			—	エアレススプレー
上塗り	ファインパーフェクトトップ Si	2	0.11～0.17	3時間以上	塗料用 シンナーA	3～13 3～8	はけ・ウールローラー エアレススプレー

※一般鉄部にはパーフェクトプライマー以外にハイボン20デクロ、ハイボンファインプライマーⅡ、1液ハイボンファインデクロ、エスパワウンエース、速乾PZハイロンエコも使用できます。

●硬質塩ビ、FRP部

塗装工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地調整	ほこり、汚れを除去した後、サンドペーパー、ウエスなどで素地を調整する。						
上塗り	ファインパーフェクトトップ Si	2	0.11～0.17	3時間以上	塗料用 シンナーA	3～13 3～8	はけ・ウールローラー エアレススプレー

※上記の数値は、すべて標準のものです。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがあります。
 ※塗料の塗り重ねは所定の塗り重ね乾燥時間をまもってください。(幅み、割れ、乾燥不良、付着不良などが起こります)
 ※旧塗膜は、健全な状態であることを想定しています。

施工上の要点と注意事項 ※詳細な内容については、各製品の製品使用説明書などにてご確認ください。

1. つや調整品を使用する場合は上塗り1（中塗り）に「つや有り」をご使用ください。つや調整品を2回塗りしますと、つやむらが生じることがあります。
2. 蓄熱されやすい建材（軽量モルタル、ALC、窯業サイディング、発泡ウレタン使用建材など）を使用した「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弾性リシン、弾性スタッコ、アクリルトップなどの場合、塗り替え段階ですでに旧塗膜が剥れていることがあります。そのまま塗装すると剥れがさらに拡大する可能性がありますので、完全に除去してください。また「高断熱型外壁」に塗装する場合は、蓄熱、水分、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なることで、建材の変形、塗膜の剥れ、はく離が生じることがありますので、最寄の営業所などにご相談ください。
3. 塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
4. 鉄部には直接塗装できません。あらかじめ、さび止め塗料を塗っておく必要があります。
5. つや調整品では、はけ、ローラーでの塗装はむらが出やすくなりますので、スプレー塗装をおすすめいたします。
6. つや調整品では、塗りむらや補修でつやむらが出やすいので、面を切って通して塗装してください。
7. 過剰希釈をすると本来のつやが発現しないおそれがありますので、規定の希釈量をまもってください。
8. つや調整品は被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間などにより、実際のつやと若干違って見える場合がありますので、事前に試し塗りをして確認してください。
9. つや調整品は、使用中にも塗料液が分離しやすい場合がありますので、適宜かはんしながらご使用ください。
10. 防藻・防かび効果は、繁殖を抑制するものです。すでに繁殖している場合は、下地処理として除去および殺菌処理してから塗装してください。
11. 被塗物の構造、部位、塗装仕上げ形状、環境条件などの影響で、本来の低汚染機能が発現されない場合があります。
12. 著しい汚染が発生しそうな個所には、状況に応じてニッペクリスタコートオーバーコート剤として塗装することで汚染を軽減することができます。
13. 溶剤系塗料のため、室内での塗装は必ず換気をしてください。また、外部での塗装においても、換気口・空気取入口などに養生を行い、溶剤蒸気が室内に入らないように注意してください。居住者へのご配慮をお願い致します。
14. 所定のシンナー以外を使用したり、薄めすぎるとつや引けやダレ、かぶり不良などをきたす原因になりますので、必ず所定のシンナーおよび希釈率をまもってください。
15. 異なる色相を塗り重ねる場合（例：1回目の上塗りを塗装してから、別な色相でラインや帯などを塗装する場合など）2回目の上塗りが1回目の上塗りを侵してラインや帯などが変色（ブリード）によりする場合がありますのでご注意ください。
16. 硬化が不十分な場合は、シンナーで再溶解する場合があります。
17. 旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこすおそれがあります。
18. 内部塗り替えにおいて旧塗膜がSOP、FEなどの油性系の場合、研磨すりを行ってください。下地処理が不十分な場合は、塗膜はく離の原因となります。
19. 既存塗膜のはく離箇所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
20. 改修工事にご使用の場合は、旧塗膜の種類によっては溶剤などの影響により、旧塗膜を侵し溶剤剥れや縮みなどの異常が発生する場合がありますので、旧塗膜の種類をご確認のうえ、塗装仕様をご検討ください。
21. 風化面・吸込みの著しい下地では、ニッペ浸透性シーラー（新）、ニッペ1液ファインパーフェクトシーラー、ニッペファインパーフェクトシーラー、ニッペファイン浸透シーラーをご使用ください。なお、使用量は濡れ感が出るまでを目安とし、素地への吸込み箇所がある場合はその部分を増し塗りしてください。
22. シーリングの上に、劣化、ひび割れなどの損傷がある場合は、打ち直しをしてください。
23. やにが著しく付着している場合は、ウエスなどでやにを水拭きして除去し被塗装面を十分に乾燥させてから塗装してください。希釈を少なくし、1回目の塗装を十分乾燥（目安23℃、6時間）させてから2回目の塗装をすることでやに止め性が向上します。シミ、あく面は止まりにくい場合がありますので、ウエスなどで水拭きを行い、被塗装面を十分乾燥させてから塗装してください。
24. 素地表面のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下（ケツ科学社製CH-2型で測定した場合）、または5%以下（ケツ科学社製H5100シリーズ：コンクリートレンジで測定した場合）の条件で塗装してください。
25. 表面のごみ、ほこり、エフロレッセンス、レイタンスなどは除去し、目違い、ジャンカ、コールドジョイントなどは、樹脂入りセメントモルタルで平滑にしてください。
26. ALC面、多孔質下地、コンクリートブロック面など外部の素地において巣穴や段差などがある場合は、樹脂入りセメント系下地調整材（ニッペ1材カチオンフィラー、ニッペ1材フィラー#200）などで処理してください。（合成樹脂エマルジョンパテの使用は避けてください。）
27. 内外壁の新設仕様の場合は、必ず下塗りにシーラーを塗装してください。

28. 材齢の若いコンクリートなどセメント成分が十分に硬化していない場合、エフロレッセンスが発生するおそれがありますので、溶剤系シーラーをご使用下さい。
29. 新設の押出成形セメント板、GRC板、フレキシブルボードなどは、下塗り材としてニッペ浸透性シーラー（新）、ニッペ1液ファインパーフェクトシーラー、ニッペファイン浸透シーラーをお使いください。
30. 塗装直後から頻繁に人が触れるようなドアの一部や手すりなどでは、皮脂の影響により塗膜表面の軟化が起こるおそれがあります。必要に応じて保護プレートなどで接触防止を行ってください。
31. カウンター、陳列棚、ベンチ、床面などものが常時置かれるような場所には跡がつくおそれがありますので塗装しないでください。
32. 屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
33. 塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分にを行い、火気厳禁にしてください。
34. 飛散防止のため必ず養生を行ってください。
35. シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離などの不具合を起こすことがありますので、原則として行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ね適合性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッペブリードオフプライマーを下塗りすることで、可塑性移行による汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、収縮割れが起こることがあります。
36. ステールドア枠回りなどシーリング材との接触が起こる部分への塗装は避けてください。可塑性の移行などにより塗膜が軟化、はく離し、シーリング材の機能を損なう可能性があります。
37. 笠木、天端など長時間水が滞留する箇所では塗膜の白化、剥れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
38. 薄めすぎは隠れ力不足、仕上がりが不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
39. 上塗りに冴えたイエロー、レッド、ブルー、グリーン系色相を使用する場合は、共色を下塗りしてから塗装してください。なお、特に冴えた色相では、共色を下塗りしても標準の使用量、塗装回数で隠れ不出来な場合があるため、事前に試験施工塗り板等でご確認下さい。
40. 調色には必ず当社専用の原色をお使いください。
41. 濃彩色や冴えた原色の場合、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類など接触する可能性のある部位には使用しないでください。なお、状況により常時接触するような個所に使用する場合は、ファインシリコンフレッシュクリヤーを上塗りに塗装してください。クリヤーのローラー及び剛毛塗装で、下塗り塗膜の再溶解や滲みが発生する場合には、スプレー塗装をしてください。
42. 大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。
43. はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面肌が異なるため若干の色相差がでますので、はけ塗りの部分は希釈を少なくして塗装してください。
44. ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がりが異なって見えることがあります。
45. 塗装方法により色相が多少変化する場合がありますので、ローラー塗りはできる限り入り隅まで入れてください。
46. 汚れ、きずなどにより補修塗りが必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
47. クロスの上の塗装は避けてください。
48. ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。
49. 可塑性が多く含まれる塩ビクロス、塩ビ珪鋼板、塩ビミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革などへの直接塗装はお避けください。また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないようにご注意ください。
50. 平滑仕上げや鏡面仕上げの場合は、素材や素地の状態によって、吸込みや巣穴によるピンホール、凹凸などを防止するため、パテ工程や研磨工程が必要になる場合があります。
51. 塗料は内容物が均一になるようにかくはんしてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かくはん機を用いて底の沈降物を十分にかくはんしてご使用ください。
52. 開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
53. 塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
54. 内容物/容器を国際、国、都道府県又は市町村の規制に従って産業廃棄物として廃棄してください。
55. 塗料、塗料容器、塗装具を廃棄する時には、産業廃棄物として処理してください。容器、塗装具などを洗浄した排水は、そのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがあるため、排水処理場などの施設に持ち込むか、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。

■本カタログ掲載商品の詳細な危険有害性情報や使用上の注意事項等については、安全データシート(SDS)をご参照ください。■本製品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は、事前に相談ください。

日本ペイント株式会社

北海道支店 ☎011-370-3101 近畿支店 ☎06-6455-9608
東北支店 ☎022-232-6711 中国支店 ☎082-281-2180
関東支店 ☎03-5479-3614 四国支店 ☎0877-56-2346
北関東信越支店 ☎03-5479-3614 九州支店 ☎092-751-9861
中部支店 ☎052-461-1960

●本カタログの内容については予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。
●本カタログ中の商品名、ロゴマークは、日本ペイントホールディングス株式会社または
日本ペイント株式会社・その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。
●Copyright © 2025 NIPPON PAINT Co., Ltd. All rights reserved.
●日本ペイントホームページ <https://www.nipponpaint.co.jp/>

期待耐用年数について

無料メールマガジンの読者募集

こちらから
ご確認ください



ペイント
かわら版®



カタログNo.
NP-D030
NP250315T
2025年3月現在



PERFECT SERIES

パーフェクトトップ Si

JIS A 6909 耐候形1種相当※
※該当規格を満たしています(社内試験)

F★★★★★
ホルムアルデヒド放散等級



PERFECT TOP **Si**

1 液水性ラジカル制御形シリコン系ハイブリッド高耐候性塗料

パーフェクトトップ® Si

ツヨク、
ウツクシク、
スマイヨク。

PERFECT
TOP

1 液水性ラジカル制御形シリコン系ハイブリッド高耐候性塗料
パーフェクトトップ Si

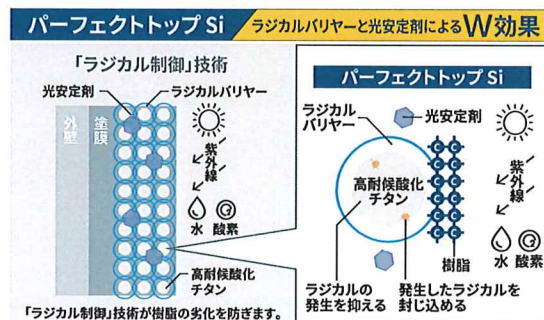
紫外線から住まいをまもる、
ラジカル制御形塗料のパイオニア。

期待耐用年数※
最大15年



独自技術で紫外線から住まいをまもる、非常に優れた耐候性塗料

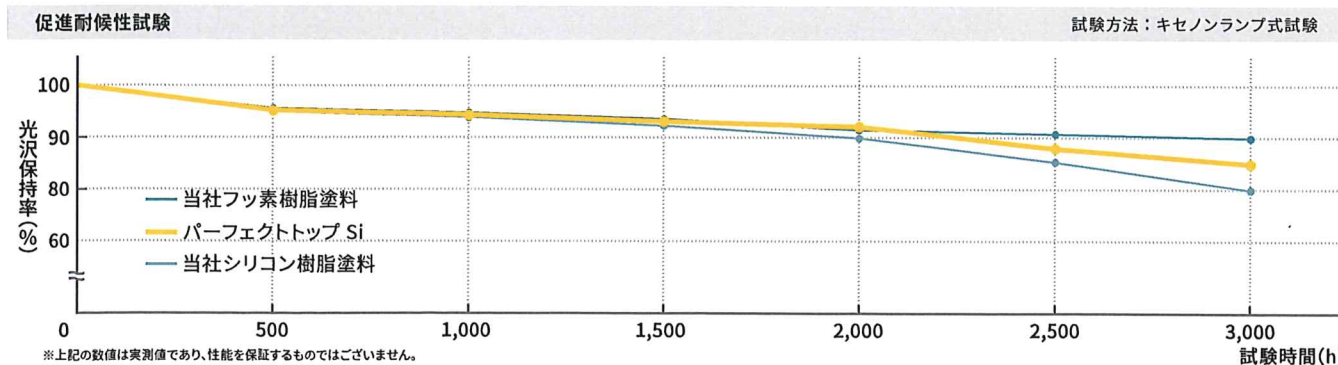
一般的な塗膜は、酸素や水とともに紫外線があたると顔料の主成分である酸化チタン内からラジカルが発生し、塗膜劣化を誘発します。そこで日本ペイントは、ラジカル発生を抑え、かつ発生したラジカルをバリアー内に封じ込める高耐候酸化チタンの活用技術を開発。さらに光安定剤の併用により、ダブル効果で優れた耐候性を発揮します。



パーフェクトトップ Si の主な特長

1. 優れた耐候性

紫外線による塗膜劣化対策として高耐候酸化チタンと光安定剤による、W効果のラジカル制御技術により、当社従来水性塗料との比較において一般シリコングレード(当社従来品比)を超える非常に優れた耐候性があります。耐候形1種に相当し、可とう形改修塗材Eの上塗りに最適です。



※期待耐用年数は塗膜劣化が進行し、塗膜寿命により下地保護機能が期待できなくなると予想される目安の時期であり、保証値ではありません。
また、期待耐用年数は一般都市部住宅の東西面において標準的な環境・塗装条件で施工された場合を想定しています。その他詳細は当社ホームページをご確認ください。



■ 上塗り塗料の耐候性のグレードレベル



2. 美しいつや

特殊ポリマーが塗膜間の隙間を埋めるため、緻密でなめらかな塗膜形成が可能となり、優れた高光沢を実現できました。また、パーフェクトシリーズ下塗りとの組み合わせによりさらに美しい外観が得られます。ニーズに合わせたしっとりとした落ち着きのある3分つや、つや消しなどつやの調整も可能です。

3. 低汚染性

親水化技術により、雨だれ汚染に対して優れた効果を発揮します。

4. 防藻・防かび機能

防藻・防かび機能で、藻やかび菌の発生を抑制します。オプションで強力防かびを選択することも可能です。

5. 透湿性

高い透湿性により、結露から建物をまもります。

6. 抜群の作業感

ポリマーハイブリッド効果により、ローラーが軽く、ネタ伸ばしがスムーズに行えます。ローラーネタ含み性および転写性にも優れており、隠ぺい(かぶり)も良く、飛散がしにくい作業性を有しており、水性で非危険物です。

■ 塗料性状・荷姿・塗装方法

塗料名	色相	つや	容量	希釈剤	希釈率	使用量 (kg/m ² /回)	塗装方法
ニッペ パーフェクトトップ Si	各色	つや有り 7分つや有り 5分つや有り 3分つや有り つや消し	15kg 4kg	水道水	3~5%	0.11~0.17	はけ ウールローラー エアレススプレー

・上記の各数値は、標準的な数値です。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・希釈率および測定器・測定方法により増減します。
・上記の使用量は、記載の塗装方法で標準的に使用する量を記載しています。必要に応じて、所定の使用量・膜厚になるように使用量・塗り回数を調整してください。
・つや調整品については、クラックのリスクがあるため、DANファイラーエポおよびDANタイル中塗の上には適用できません。

■ 適用下塗り塗料・適用下地

	適用下塗り塗料	適用下地
内外壁	パーフェクトフィラー パーフェクトサーフ	●モルタル面 ●窯業系サイディングボード ●コンクリート面 ●ALCパネル面 ●各種旧塗膜の上
	水性パーフェクトシーラー ファインパーフェクトシーラー 1液ファインパーフェクトシーラー	●無機やフッ素下地の高意匠サイディングボード (従来のモルタル、コンクリート面などにも塗装できます)
付帯部	パーフェクトプライマー	●付帯金属面 ●金属パネル外壁 ●FRP ●亜鉛めっき ●木部 ●アルミ ●各種旧塗膜の上

■ 乾燥時間

	5~10℃	23℃	30℃
指触乾燥	40分	15分	10分
塗り重ね乾燥	8時間以上	3時間以上	2時間以上

※乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

標準塗装仕様(塗り替え)

●モルタル面、コンクリート面の塗り替えなど

塗装工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地調整	活膜を残し劣化塗膜は入念に除去する。ほこり、汚れを除去、清掃する。						
下塗り	パーフェクトフィラー	1	0.20~0.45	4時間以上	水道水	3~8	ウールローラー
			0.50~0.90			1~5	砂骨ローラー
						2~5	タイルガン
上塗り	パーフェクトトップ Si	2	0.11~0.17	3時間以上	水道水	3~5	はけ・ウールローラー・エアレススプレー

※パーフェクトフィラーをローラー施工する際に、高温時や風が強い場合などの乾燥が速まるような条件下では、希釈率を上限値の範囲内で調整することをご推奨します。(作業性や仕上りの向上を更に図ることができます。)

●窯業系サイディングボード、ALCパネル面の塗り替えなど

塗装工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地調整	活膜を残し劣化塗膜は入念に除去する。ほこり、汚れを除去、清掃する。						
下塗り	パーフェクトサーフ	1	0.20~0.40	3時間以上	水道水	2~5	はけ・ウールローラー
上塗り	パーフェクトトップ Si	2	0.11~0.17	3時間以上	水道水	3~5	はけ・ウールローラー・エアレススプレー

●付帯部金属、金属パネル外壁、FRPの塗り替えなど

塗装工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地調整	膨れたり、割れたり、浮いている劣化塗膜は、周辺部を含めて入念に除去する。さびは電動工具やサンドペーパー・研磨布などを用いて除去し、清掃する。						
下塗り	パーフェクトプライマー	1	0.14~0.16	4時間以上7日以内	塗料用シンナーA	0~5	はけ・ウールローラー
			0.16~0.18			0~5	エアレススプレー
上塗り	パーフェクトトップ Si	2	0.11~0.17	3時間以上	水道水	3~5	はけ・ウールローラー・エアレススプレー

※一般鉄部にはパーフェクトプライマー以外に、ハイボンドデクロ、ハイボンファイプライマーⅡ、1液ハイボンファイデクロ、エスパワフェース、速乾2ヘルゴエコも使用できます。

※さびが発生しやすいエッジ部もしくはさびが発生している箇所を塗装する場合、入念なケレン後、パーフェクトプライマーで部分補修を行ってから下塗りしてください。

※上記の数値は、すべて標準のものです。被塗物の形状・素地の状態・気象条件、施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがあります。

塗料の塗り重ねは所定の塗り重ね乾燥時間をまわってください。(縮み、割れ、乾燥不良、付着不良などが起こります)

※カタログに記載されている内容は一般的な環境下での施工を想定して記載されております。

特別な環境が想定される施工現場・部位に塗装される場合は、事前に必ず当社営業までご相談いただきますようお願いいたします。

施工上の要点と注意事項

※詳細な内容については、各製品の製品使用説明書などにご確認ください。

1. 地えき結露が発生するような用途、場所での使用は避けてください。著しい結露が発生する場所では、塗料中の水溶性成分が表面に溶出し、粘着物などとなって析出するおそれがあります。著しい結露が予測される場合は、塗装を避けるか、溶剤系塗料での塗装をおすすめ致します。
2. 蓄熱されやすい建材(軽量モルタル、ALC、窯業系サイディング、発泡ウレタン使用建材など)を使用した「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弾性リシン、弾性スタッコ、アクリトップなどの場合、塗り替え段階ですべて旧塗膜が剥がれることがあります。そのまま塗装すると膨れがさらに拡大する可能性があります。完全に除去してください。また「高断熱型外壁」に塗装する場合は、蓄熱、水分、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なることで、建材の変形、塗膜の剥れ、はく離が生じることがありますので、最高の営業所などにご相談ください。
3. 塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。

4. つや調整品では、はけ、ローラーでの塗装はむらが出やすくなりますので、スプレー塗装をおすすめいたします。
5. つや調整品では、塗り継ぎや補修でつやむらが出やすいので、面を切って通して塗装してください。
6. 過剰希釈をすることで本来のつやが発現しないおそれがありますので、規定の希釈量をまわってください。
7. つや調整品は被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間などにより、実際のつやと若干違って見える場合がありますので、事前に試し塗りをして確認してください。
8. つや調整品は、使用中にも塗料液が離れし場合がありますので、適宜かくはんしながらご使用ください。
9. 防藻、防かび効果は、繁殖を抑制するものです。すでに繁殖している場合は、下地処理として除去および殺菌処理をしてから塗装してください。
10. 被塗物の構造、部位、塗装仕上がり形状、環境条件などの影響で、本来の低汚染機能が現れない場合があります。

11. 著しい汚染が発生しそうな箇所には、状況に応じてニッペクリスタコートオーバーコート剤として塗装することで汚染を軽減することができます。
12. 塗装後、乾燥不十分な状態で降雨結露などがある場合や、低温、高湿度、通風の無い場合には、膨れ、はく離、割れ、白化、シミが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装する場合は、強制換気などで湿気分を飛ばすようにしてください。シミが発生した場合は乾燥後拭き取って除去してください。
13. 色相によっては降雨、結露によってぬれ色になる場合がありますが、乾燥すると元に戻ります。

14. 乾燥後の塗面に付いた汚れは、シンナーなどの溶剤では拭かず、せっけん水で洗浄してください。
15. スプレーノズルの先端は、ときどき水洗いをしてください。作業環境の低下および塗りむらの原因になります。
16. 乾燥条件によっては塗膜表面に粘着を感じる場合がありますが、時間とともになくなります。
17. 反応硬化タイプの塗料のため、使用後のはけなどはできるだけ早く水で洗浄してください。固まった場合は、すみやかにラッカーシンナーで洗浄してください。
18. 動物のはけは、はけが固まったりタマになりやすいため、できるだけナイロンはけをご使用ください。

19. 旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などですべて除去し、清潔な面としてください。付着阻害をおこなうおそれがあります。
20. 既存塗膜のはい離れ箇所は、既存塗膜の塗装仕様でタタリ合わせを行ってください。
21. 風化面・吸込みの著しい下地では、ニッペ浸透性シーラー(新)、ニッペ1液ファインパーフェクトシーラー、ニッペファインパーフェクトシーラー、ニッペファイン浸透性シーラーをご使用ください。
22. 外壁パネル面にもご使用いただけますが、平滑(フラット)な面に塗装した場合、塗り継ぎむらなどの仕上がり不良に至る場合がありますのでご注意ください。
23. 塗り替え時のシーラーは、ウルトラシーラーⅢまたは水性カチオンシーラーをご使用ください。溶剤系シーラーのご使用は、旧塗膜の種類によっては溶剤剥がれを発生させることがあります。
24. シーリングの上に、劣化、ひび割れなどの損傷がある場合は、打ち直しをしてください。
25. タイル面の洗浄に使用する薬剤が塗面に付着すると、変色や早期劣化などを生じることがありますので、このような場合には薬剤が付着しない様に塗膜面の養生を行ってください。
26. 素地表面のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下(ケツ科学社製CH-2型で測定した場合)、または5%以下(ケツ科学社製H1500シリーズ:コンクリートレンジで測定した場合)の条件で塗装してください。

27. 表面のこみ、ほこり、エフロレッセンス、レイタンスなどは除去し、目隠し、ジャンカ、コールドジョイントなどは、樹脂入りセメントモルタルで平滑にしてください。
28. ALC面、多孔質下地、コンクリートブロック面など外部の素地において巣穴や段差などがある場合は、樹脂入りセメント系下地調整材(ニッペ1材カチオンフィラー、ニッペ1材フィラー#200)などで処理してください。(合成樹脂エマルジョンパテの使用は避けてください。)

■本カタログ掲載商品の詳細な危険有害性情報や使用上の注意事項等については、安全データシート(SDS)をご参照ください。■本製品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は、事前に相談ください。

- 本カタログの内容については予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。
- 本カタログ中の商品名、ロゴマークは、日本ペイントホールディングス株式会社または日本ペイント株式会社・その他の会社、日本およびその他の国の登録商標または商標です。
- Copyright © 2025 NIPPON PAINT Co., Ltd. All rights reserved.
- 日本ペイントホームページ <https://www.nipponpaint.co.jp/>

期待耐用年数について

無料メールマガジンの読者募集

こちらから
ご確認ください



ペイント
かわら版®



カタログNo.

NP-D029

NP250315T

2025年3月現在

日本ペイント株式会社

北海道支店 ☎011-370-3101 近畿支店 ☎06-6455-9608
東北支店 ☎022-232-6711 中国支店 ☎082-281-2180
関東支店 ☎03-5479-3614 四国支店 ☎0877-56-2346
北関東信越支店 ☎03-5479-3614 九州支店 ☎092-751-9861
中部支店 ☎052-461-1960